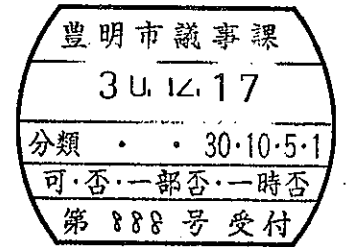


豊明市議会議長 殿

研修会・講演会等参加報告書

議員名 富永秀一



平成30年度豊明市議会政務活動費にて下記の研修に参加しましたので報告します。

日付	研修先	研修項目及び成果等
平成30年11月14日 ～11月15日(1泊2日)	第13回全国市議会 議長会研究フォー ラム in 宇都宮(栃木 県)	別紙参照

(注) 別紙添付も可能とします。

(注) 本報告書は5年間公開します。

第13回全国市議会議長会研究フォーラム in 宇都宮研修内容

以下に、感銘を受けた部分、豊明市議会のあり方にも関連する部分、活かすことが可能と思われる部分を中心に報告する

□基調講演「地域共生社会」をどうつくるか 2040年を越える自治体のかたち

中央大学法学部教授 宮本 太郎氏

人口が減ることは悪いことばかりではないのではない。みんなが活躍できる社会となる可能性も。一億総活躍と言われるが、放っておいてそうなるわけではない。

元気な人口をどれだけ増やせるか。定年後の男性が、地域の資源になるか、お荷物になるかで大きく違ってくる。地縁血縁が薄まっていく無縁社会であるが、縁づくりが大切。

日本人の半数が107歳まで生きる時代になっていく。定年後がターニングポイント。20歳から65歳までの就労時間と、65歳から85歳までの起きている時間はどちらも10万時間で同じ。107歳までなら20万時間になる。

しかし、放っておくと困窮化が進む。就職氷河期世代がそのまま高齢化。マクロ経済スライドで、基礎年金が3割減り、65歳以上の生活保護受給者が86万人から2040年には200万人を超えるという見通しも。

また孤立化も。高齢単身男性は会話頻度が少ない。2週間に1回以下が15%。昔の自分のキャリアにすがってしまい、周囲が引く場面がよくある。

現役世代も力を発揮できない。奨学金の借入が平均312.9万円、月の返済額が平均1万7206万円。雇用の不安定化が、非婚・単身化を進める。30代男性で、正規雇用の未婚率30.7%に対し、非正規雇用75.6%。

出生率が低下し、現役世代が減少する悪循環。子ども1人当たりにかかる実費コストもさることながら、お母さんがそのまま働いた場合と6年後にパートで仕事を再開した場合との生涯賃金の差が2億5000万円。

現役世代と高齢世代の比が、10対1から1.5対1に。肩車社会と言われるが、実質的には現役世代は実力を半分も発揮できていないので、0.5対1の重量挙げでは？

人口は東京に集中していく。でも東京ほど子どもを産み育てることが難しい社会はない。漏斗のように人口は集まるが高齢化していく。

重量挙げ化と漏斗化が2040年頃限界点に達し、地方も東京も持続可能性が問われる。ピンチをチャンスに、チャンスを現実にしていく必要がある。

皆が人財となり、ずっと出番があるまちへ。従来の地縁から、必要が結ぶ縁、新しい家族縁、地縁でコンパクトな拠点に。

これまでは雇用機会が充実していたので、高齢、障害、困窮などの縦割りで、働けない人だけ保護していれば良かった。これからは、体力的な問題ではなく、雇用の機会が少なく、非正規で働いても十分な収入が得られない、両親の介護、子どもの発達障害などによる困難も起きやすくなる。縦割りを越えた包括的な支援により、活躍の場を創出し、困難を抱えた人を、保護するのではなく元気にする。



三重県名張市では、各小中学校区に包括支援センターを設置。でも名前は「まちの保健室」とした。行きやすくするための配慮。

若者でも倒れるような人手不足で過酷な現場に、困難を抱えた方を、いきなり放り込んでも難しい。日本ではオールアROUNDで仕事できる人が求められるが、これからは、ユニバーサル就労も用意する。スーパーのバックヤードで荷造りするなど、その人でもできる仕事を切り出していく。

静岡県富士市は、ユニバーサル就労条例を策定。大阪府でも検討中。豊中市では、行政が無料で紹介する。企業に同行して個別に交渉もして、その人でもできる仕事を切り出す。

65歳以上の就業率が高く、ずっと出番のあるまちは、生活習慣病や介護うつへの抑制に効果があり、後期高齢者医療費が少ない。

従来の地縁・血縁から、子育て、介護などをめぐる、地域の中で自分で選んでいく縁へ。

□パネルディスカッション「議会と住民の関係について」

コーディネーター

山梨学院大学大学院研究科長・法学部教授 江藤 俊昭氏

パネリスト

公益財団法人 地方自治総合研究所主任研究員 今井 照氏

有限会社 ひまわり亭代表取締役 本田 節氏

朝日新聞大阪本社地域報道部記者 神田 誠司氏

宇都宮市議会議長 小林 紀夫氏

本田氏 平成7年から人吉市で2期、市議会議員を務めた。熊本県議会議員選挙に挑戦したが敗れ、その後数ヶ月ヨーロッパに、グリーンツーリズムによるまちづくりの研修に行った。現在、地域振興策の一つとして日本型グリーンツーリズムに取り組んでいる。

地域で暮らす女性達が活躍できる環境づくりが重要。女性達の手練れの技は、地域のたからもの。女性や高齢者は、地域の元気づくりの主役で、地域のリーダー。

神田氏 どうせメディアは、いいことをしても書いてくれない、政務活動費の問題があったら大々的に書くのに、と言われるが、私は応援団。良いことも書く。

昔の地方議会はワンダーランドだった。ある議会の議長選挙で、それぞれの候補に対する問責決議合戦になった。高崎山に視察に行った時、一方の議長候補がサルを蹴ったことが理由。もう一方も下らない問責決議でやり返し、職員も記者もつきあわされた。地方議会はどんなところかと思った。「高崎山のサルを蹴って問責決議」の見出しで記事にした。



議会は、多様な民意をくみ上げる組織であるはずだが、住民を代表していると言えるか。16年前、鳥取県で当時の片山知事が、日野郡で郡民会議を作ろうとした。女性を入れ、若者も入れる。それが県議会の逆鱗に触れた。片山さんの思いは、議会は高齢者の男性ばかりで、多様な住民を代表する組織になっていないということ。それは現在もあまり変わっていないのでは？

当時から女性議員もあまり増えてない。勤め人も少ない。自営業や農業の方ばかり。考え方、見方が偏ってしまう。日野郡民会議のようなものを議会がやればいい。

北海道栗山町議会では平成17年から議会報告会を開いている。大事なものは聞くこと。福島県の会津若松市議会では市民との意見交換会を盛んにやっている。

江藤氏 議員のうち女性を半分にだとか、若い人も増やしてというの分かる。しかし、女性議員は13%。

神田氏 議員の人数を男女や年齢構成を同じ比率にするのは難しい。そうした方々からの意見を吸い上げる装置を作ればいい。

小林氏 制度的に議会には執行権がない。地方自治制度そのものを考えてみてはどうか。昔は議員から市長が選ばれる議院内閣制だった。GHQは幾つかある地方自治制度の中から二代表制を導入した。ヨーロッパはほとんどが議院内閣制。日本の二代表制が間違っていたというわけではないが、低成長時代にあらためて地方自治制度を見直すことが必要ではないか。小規模な自治体は、一回の選挙で、その中から首長を出せば良いのはメリットがある。議員が市民と非常に近くなるのではないか。

江藤氏 地方自治制度論は、研究レベルではやるが、時間のかかる議論。各制度、メリットもあればデメリットもある。

今井氏 機能的な市民活動をしている方々とのつながりが大事。議会が市民にとって遠い存在になっていないか。

市は人口400万人から数千人までである。2016年に市町村に新たに対応を求められた計画が年間10本。小さな市ではアップアップ。少なくない自治体が各省が作るマニュアルにそって作っている。ましてや議会がどこまでできるか。行政が作ったものの説明を受けるのが精一杯のところもある。

市民活動と議会の関係が課題であるというのは、欧米では理解が難しい。そもそも市民と議会は一体。日本では、歴史的に市民と切り離されてきた。事務的に処理している感じ。議会がもっと頑張るという意味で陳情を出しても、市長を守る発言ばかりだと、市民はまた離れる。もっと市民と一体となっていけないのでは。

議会と市民が接触する総量を増やすことが必要。定数を減らすことは総量を減らす事になるのが当たり前。



議員のなり手不足は、議員はそんなにいいことないからでは？何らかのミッションを持っていないとやりたいと思わない。特に今の若い人は政治が嫌い。批判をしたり、もめることが凄く嫌い。我々の世代は、争うことの楽しさを知っているが、感性が違う。

小林氏 議会と市民を近づける必要がある。

大選挙区で定数が45名。適正に市民が選ぶには10人を比較するのが限界という話もある。大選挙区を解消し、選挙区をもっと細かくするのも一つの方法かも。身近な人たちとの接触が増える。

江藤氏 45人もいたら普通は比例代表制にする。条例でできるが、合併の時にやった例がある位。

神田氏 市民に対して多様な回路を開く必要がある。例えば、議会だよりのモニター制度。犬山市議会のように市民の意見を聞くのも良いのでは。目に見える成果を議会が出して、住民に示していく。市民との接触の総量を増やす。



会津若松市議会は、年に2回15カ所で意見交換会を開き、200以上の意見やアイデアが寄せられて、それを元に政策提言などを練り上げていく。

自由討論を活発に行い、何を優先するかなどを決めていく。会津若松市議会の議長さんが良くおっしゃるのが、一人一人の力は線香花火でも、まとまれば打ち上げ花火になるということ。

議会だよりをどんどん変えては。インターネットでの情報発信もされているが、見る人はなかなかいない。各戸に配られる議会だよりが重要。

議会だよりを使って、議会改革の中に市民を入れていく。100人でもモニターを頼んでみるといい。

小林氏 公職選挙法は非常にしぼりが多い。こんな法律日本くらい。なり手不足の一因では。

任期の延長も。6年だって8年だって良い。ドイツは9年。議会と執行部の力関係を改善する。議長任期を長くする、副市長に議員を就任させる、特別公務員に議員経験者をあてるという方法も。

神田氏 議会報告会では、毎回、自説を述べる声の大きい人がいる。それならワークショップ形式にするとか、グループに分けるなどすれば、常連の声ばかりでなくなる。恐れず多様なチャンネルを持って欲しい。

江藤氏 議会は重要な権限を持っている。その魅力をどう伝えるか。議会モニターはハードルが高い。議会だよりのモニターから入っていくのは良いのでは。他の議会の取り組みで、良いと思った物は徹底的に真似して広げていって欲しい。

□課題討議「議会と住民の関係について」

コーディネーター

山梨学院大学大学院研究科長・法学部教授 江藤 俊昭氏

事例報告者

久慈市議会副議長 桑田 哲男氏

新潟市議会議員 伊藤 健太郎氏

犬山市議会議員 ビアンキ アンソニー氏

竹原市議会議員 道法 知江氏

桑田氏 議会改革が進んだきっかけは、定数問題でもめて議長が辞めることになり、はじめて立候補による議長選挙が行われた時、両候補が議会改革を誓った。

前文が方言の、議会じえじえ基本条例を制定した。

全国で初めて、袖ヶ浦市議会と、議会間の協定、議会間友好交流協定を結んだ。

議長の他、常任委員長も所信表明をする。

議会報告会の失敗を分析した。警戒心を持っていたり、無関心な市民が多く、参加者が集まらない。参加者が中高年男性に偏る。特定の人だけが発言し、他の人が発言できない。議会や行政に対する不満・陳情に終始し、会場の雰囲気が悪い。

逆転の発想をして、議会に警戒心を持っていたり、無関心な、特に働き盛りの子を持つ親世代の市民に、これまで議会に届けにくかった、声なき声を語ってもらい、未来に向かってどんな町にしたいのか、そのための課題は何か、市民と議会が垣根を越え、雰囲気よく一緒に話し合う場として、「かだって会議」を設計した。

市民と議会が協働する場として、ワールドカフェ方式で、クリスマスの飾り付けをするなど、楽しい雰囲気で開催。議員がファシリテーション研修を受けた。参加者は、市の人口構成に近づけた。

話し合う内容や問いかけをあらかじめ決めておき、3回ローテーションして、各グループの内容を発表した。

当局もファシリテーション研修を受けて同じ形で実施した。

参加者から議員になった人もいる。

伊藤氏 平成27年に初当選した13人が、学校等と協働で主権者教育を進められないかと発案。ダイナミックな取り組みとするためには議会として取り組むべきということになり、前議長の強いリーダーシップのもと議会として、主権者教育推進プロジェクトを行うことになった。



「議会による主権者教育の取り組みについて」をテーマに、全議員対象の研修を新潟県立大学で受けた。

教育委員会から、議会に対する期待をうかがって、4つのプログラムを考えた。

- (1) 模擬市議会～合意形成のロールプレイング
- (2) 地域課題の解決に向けたワークショップ
- (3) 市議会の傍聴・見学
- (4) 議員との交流・意見交換

高校2年生を対象に模擬市議会を開いた。アイスブレイクとして、○×棒で、昨日までに市議会議員に会ったことがある人を聞くと、ほぼゼロ。国会議員なら何人か。芸能人は半分。ショックだったが、それだけ距離があるということ。

最初は全部議員で行い、次に生徒が、市長役、議員役となる。

プログラムの流れは、事故が多発し、市長が対策を講じるための補正予算案を提案するが、市議会が三分裂し否決。すると翌年も事故が多発し、議会が議論をして合意形成をして補正予算案が可決される。しかし、最後まで5%位は、納得できない議員も残る。しかし、それも大事なのだと伝える。



議会は喧嘩しているようなイメージを持たれている。喧嘩ではなく、議論をしていると知って欲しかった。

模擬市議会の後、議会への関心は、19%から92%に急増した。

属人的な取り組みにならないようにしている。アイスブレイクのシナリオも残している。つなげて発展させていくため。

ピアンキ氏 議長となり、議会機能を向上させるため、重視する3点を掲げた。「議員間討議」「政策立案・政策提言の力向上」「市民参加」。

全員協議会を定例議会中に開く。委員会付託から、各委員会のまで間。一般質問で良い答弁がなかった場合の対応や、上程された議案の内容などを協議する。

当初予算を修正可決し、不要な事業をなくす、議員提出議案で条例を改正する、といったことが実現。意見書案や決議案、附帯決議の可決も増えた。

公共施設の利用や予約について、一般質問での答弁に納得が行かず、議員間討議で意見を集約、市に申し入れをした。

市民フリースピーチを実施。市民が5分まで議場で議員に対し発言できる制度。全員協議会で議員間討議し、申し入れなどのアクションにつなげる。行政は呼んでいない。市民の声が実現されれば、議会への関心が高まる。米国の地方議会ではあたりまえの制度。

江藤氏 公募は不安では。

ビアンキ氏 市民からどんな内容か書面を出してもらおう。正副議長、委員長、事務局で、内容をみる。極端な内容でなければ良い。クレーマーみたいなことにはなっていない。良い意見ばかりいただいている。議員の時から提案していたが流されていた。議長としての提案だからやってみた所、議員も乗ってきた。フリースピーチの内容を一般質問につなげる人もいる。

道法氏 金物店に生まれた。女性蔑視の世界だった。東京から瀬戸内の島に嫁いだ。ミカン農家もやはり男尊女卑の世界だった。PTA などでも物事を決めるのは男性。女性は声を上げられない。自分が声を上げて周りから賞賛された。学歴のない普通の主婦で不安もあったが議員に。

陣痛が来る中、自分で運転して産院に行った経験などから、妊婦健診や、乳がん・子宮頸がん対策などに力を入れてきた。

11年目に議長になり、議会の見える化、情報発信を推進。

多様化する現代社会の政治にこそ女性の力が必要。コミュニケーション能力を活かし、市民の声を聞く、暮らしに身近な政策提言をするなど。

女性議員の更なる活躍には、男性議員の理解と支えが必要。お互いが尊重し認め合う議会に。

伊藤氏 議会報告会は、対面式だと、偏りが出やすい。予算をしっかり確保して、第三者にファシリテートしてもらうのも良いのでは。

桑田氏 議会モニター制度を入れた。13人に出てもらって、2回位会議を開く。想定以上の話が出てくる。

東日本大震災の時、議会も事務局も何もできなかった。対応マニュアルを作った。タブレットを全員所持し、自分の地域の災害状況を事務局に流す。それを確認して全議員に流す。必要な情報は貼り出して、いつでも見られるようにする。平成23年の台風による災害の時は、3班に分かれて被災状況を確認。必要なものは市長に届けた。

伊藤氏 大学で議会報告会をやるのもいい。かなり真剣に聞いてもらえるし、前向きな意見が出てくる。新潟県立大学でやった。

道法氏 災害時の行動マニュアルを作った。議会で写真等を集めて、事務局で整理して当局に渡す。食料、土嚢、薬品の状況など。タブレットが導入されていればもっと早くできたと実感している。

議員間討議は壁にぶち当たっている。審査や所管事務調査を行い、議論する中で意見が変わってもいいという意識が低い。

広聴機能は難しい。参加者数が少なく、市民のスタンダードな意見なのか疑問もある。

江藤氏 外に出向くことや議会を開放することは、主権者教育にもなる。

議会だよりモニターの導入は、積極的な応援団を作っていく良い方法。



■研修の成果

基調講演では、2040年に向けて、少子高齢化の厳しい予想と、多様な人たちが活躍できる仕組み作りの重要性がわかった。ただ、実際には、2040年ともなると、人間ではないもの（AIやロボットなど）が、社会を支える大きな存在になっているようにも思うし、そうして豊かな社会にしていかなければならないと思うが、今考えられる資源、手段でも、酷い状態にしないための知恵として理解した。

議会と住民のあり方のポイントとして、一つは市民と接触する総量を増やしていくことの重要性を感じた。特に議会だよりモニターは、市民も気軽に参加できて、議会に関心を持ち、知ってもらえる良いチャンスになるので、毎年大量に募集し、毎年変わってもらおうと、それだけでもかなり効果が見込めるように思った。

もう一つのポイントが、幅広い市民との接触だが、ここでも、議会だよりモニターを募集する段階で、年代別に定員を設けるなどして、多様な意見を聞くようにしておけば、議会報告会や意見交換会にも、議会だよりモニターの方々の多様な世代の参加が見込めると思う。

また、ワールドカフェ方式による多様な世代の声を聞く機会も是非作ると良いし、そのためにファシリテーターの研修を全議員が受けると、意見交換会の運営だけでなく、議会運営にも役立つように思った。

まずは、しっかり議論して決めていける議会となる必要があり、その上で、より高度な主権者教育や、市民フリースピーチなどにも挑戦できると良いと思う。

タブレットを導入して、災害時に役立ったケース、あれば役立ったと感じられたケースの話が聞けたことは、今後のICT化を考える上で参考になった。

以 上